

■ 秋常・高座の平地林（秋常町・高座町）



■ 環境の特徴

秋常・高座の平地林は、国指定史跡の前方後円墳がある秋常山古墳群のとなりにあり、ここには西山古墳群があります。秋常山古墳群は、古墳公園として整備されたため、林は伐採されてしまいました。しかし、西山古墳群のある平地林には、杉林やコナラ、アベマキなどの二次林があり、一部は竹林となっています。また、山頂部にはクヌギやコナラが生えていて里山に近い環境になっています。

位置図





山頂部にはクヌギの木があり、樹液に昆虫が集まります。



林縁部には草地があり、里山のチョウ類やバッタ類を観察することができます。

■ すんでいる昆虫の特徴

コナラなどの二次林があるので、すんでいる昆虫は里山で見られる昆虫が多いです。地面を歩くコウチュウ類としてはゴミムシ類やマヤサンオサムシが多く見られます。タヌキなどのほ乳類が生息しているようで、その獣糞にはセンチコガネなどが集まります。少し開けた林縁部では、ルリタテハやサトキマダラヒカゲ、ミズイロオナガシジミなどの里山のチョウ類を見ることができます。また、樹液の出ているクヌギには、カブトムシやヒラタクワガタなどの昆虫が多数訪れていました。さらに開けた草地にはバッタの仲間やカメムシの仲間がすんでいます。



アオマツムシ



見られる時期

8月中旬から10月にかけて見られます。



■生態

明治時代に中国大陸から日本に侵入してきました。樹上の葉に止まっているので、樹上から「リーリーリー」という鳴き声が聞かれたら本種でしょう。

■体の特徴

体の大きさは約2.5cmで、メスは全身が緑色ですが、オスは写真のように背中の中中心部が褐色です。



ヒメホシカメムシ



見られる時期

5月から10月にかけて見られます。



■生態

林の中の明るい開けた場所に咲いている花に集まります。針のような口で植物の花や実の口を刺して汁を吸います。

■体の特徴

体長約1.2cmの小さなカメムシの仲間です。体の色が赤く、背中に黒い丸の模様が二つあるのが特徴です。



ミンミンゼミ



8月から9月にかけて見られます。



■生態

名前の通りに「ミンミンミンミンミンミー」とよく鳴きます。平地から標高の高い林にすんでいます。

■体の特徴

大きさは約3cmで、胸部と腹部の境界が白く、青色や緑色の斑紋が特徴的です。



カブトムシ



成虫は7月から8月にかけてクヌギなどの樹液に集まっているのが見られます。幼虫は腐葉土などに一年中います。



■生態

夏に羽化した成虫は、幼虫の餌となる腐葉土や堆肥などに卵を産みます。卵からふ化した幼虫は腐葉土や堆肥を食べて育ち、次の夏に成虫になります。

■体の特徴

平均的な体の大きさは4cmから5cmほどです。オスには立派なツノが生えていますが、メスにはありません。



ヒラタクワガタ



成虫は6月から8月にかけて見られます。幼虫は土に埋もれた倒木の中にいます。



■生態

ヒラタクワガタは成虫になるのに2年かかる種です。成虫は夏に朽ち木に卵を産み、卵から生まれた幼虫は朽ち木を食べて育ち、2年後の夏に成虫が現れます。

■体の特徴

大きさは3cmから6cmとさまざまです。オスの大アゴは平たくて大きく、大アゴの根元に1対の突起があり、先端にかけてノコギリ状になっているのが特徴です。



ルリタテハ



4月から5月と7月から10月にかけて見られます。



■生態

平地や山地の林の縁に生息しています。花にはあまり訪れませんが、樹液などで吸汁しているのを見ることができます。

■体の特徴

ハネの縁がギザギザしていて、名前のとりの美しい青色の模様があります。

林内はとても暗く、山頂部へ行くための道が整備されています。ただし、蚊が非常に多いため長袖、長ズボンで肌の露出を避け、虫よけスプレーなどで蚊に刺されないための対策が必要です。



- ・夜間にクヌギの木を見に行くと、樹液を吸いに昆虫たちが集まっています。



- ・林の縁などの開けた場所ではモンキアゲハなどのチョウ類が飛んでいます。



- ・アミを使って近くの草むらをすくうと、ヒメホシカメムシなどの小さな昆虫を観察することができます。

■ 保全のために

昆虫や他の小動物を保全するためには、クヌギやコナラなどの二次林を残すことが大切です。ただし、林内が、あまりに暗くなると、明るい林を好む昆虫や草地に生息していた昆虫たちが少なくなります。そのため、下草刈りや間伐などによりある程度人の手を加える必要があります。